

## 2. 交流内容に関する事項

### (1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

① 交流名 (事業名)	(1)河南省における植樹活動 (2)県内の多文化共生促進事業 (3)中国との少年サッカー交流
② 交流の内容	<p>(1) 中国では、長江や黄河などの中上流域における森林の減少が大洪水や渇水の原因の一つとなり、また、砂漠化の進行により農地や放牧地などが劣化し、深刻な影響を与えています。このような中、1998年の長江流域等の大洪水を契機に、中国では自然災害の防止や森林資源回復のための植林活動が国民的な運動として展開されてきました。こうした中国の植林活動を支援するため、日中緑化交流基金の助成事業を活用し、2000年から20年間にわたって、河南省側カウンターパートと協力しながら、河南省内の7か所において植樹活動を行いました。</p> <p>(2)河南省出身者に限らず、三重県内の華僑・華人会、中国人留学生グループと連携し、中国語スピーチコンテスト、カラオケ大会、旅行企画など、会員をはじめとする日本人住民も参加する交流行事を開催することで、相互理解を深めて地域における多文化共生を促進しています。また、技能実習生の受入機関として、受け入れた実習生の生活面のサポートや、雇用先企業との調整などをきめ細かく行うことで、地域住民との共生を促進しています。</p> <p>(3)北京を中心として中国全土で、サッカーを通じた青少年育成に取り組む団体(北京楽園体育発展有限公司)や、三重県体育協会、三重県津市内のサッカー少年団と連携して、三重県と中国、日本と中国における少年サッカー交流を2018年から行っています。また、北京楽園体育発展有限公司(中国側の団体)と深いつながりがある、著名なサッカー解説者(元中国代表サッカー選手)の張路氏に対して、三重県からも県のPRを委託しており、サッカー交流と併せて、中国における県のPRにも協力しながら取り組んでいます。</p>
③ 背景・経緯	<p>(1)当協会は1951年の設立以来、三重県内における民間での日中交流活動において、中心的な役割を担ってきました。1986年に三重県と河南省が友好提携を締結した後は、河南省との交流に重点を置き、両県省の交流活動への参加・協力を行ってきました。1998年頃、河南省においても自然災害の防止や森林資源回復のための植林活動に興味を示していることがわかったため、助成事業を活用して、河南省への貢献と両県省の交流を行うこととしました。</p> <p>(2)以前から県内に在住してきた中国人に加えて、近年は技能実習生や留学生などが増加しており、中国人は三重県の発展にとって欠かせない存在となっています。一方で、言語や文化の違いから、日本人住民との間に様々な課題も発生しており、地域住民として共に生活していくためには、行政だけでなく民間団体による支援が重要となっています。</p> <p>(3)2018年、当協会役員が偶然知り合った北京楽園体育発展有限公司の董事長からの要望により、県や県体育協会、県サッカー協会等の協力を得て、三重県内における少年サッカーに関する視察を当協会受入れたのがきっかけで交流が始まりました。受験勉強などの弊害で青少年育成に課題のある中国において、三重県内のスポーツ少年団の理念や実践を紹介するなどして、サッカーを通じた青少年育成に協力するとともに、日中間で少年たちの交流を行っていくこととしています。</p>
④ 交流の成果	<p>(1)20年間で行われた植樹活動の結果、計1,616ヘクタールに375万本が植樹されました。植樹された樹木の多くは順調に育ち、荒地だった現地に森林、林野が形成されています。</p> <p>また、植樹活動のために、20年間で計20回、のべ100人が河南省を訪問しました。河南省からの植樹活動への参加者は、のべ1,000人にのびりました。植樹活動へ参加することによって、両県省の市民による友好交流が毎年のように行われてきました。</p> <p>(2)技能実習生の受入れは、2019年までで700人となっており、県内企業において勤務しています。また、最近3年間のスピーチコンテスト・カラオケ大会・旅行企画といった協会主催行事への参加者は、のべ500人となっています。これらの行事を通じて、留学生と日本人学生の交流も促進するとともに、協会の活動に協力してくれる留学生に、県内観光地の紹介記事を中国語で執筆してもらい、在中国日本大使館が発信しているSNSに掲載するなど、当協会が仲介して三重県を中国へPRする取組にもつながりました(2018年度に計3回掲載)。こういった地域に貢献する留学生の活動を情報発信することで、留学生が地域で好意的に受け入れられることにもつながっています。</p> <p>(3)2019年10月18日、「第一回中日校庭サッカーサミットフォーラム」が中国天津市薊州区において、地元薊州区政府主催で開催されました。地元の教育関係者200名が参加し、張路氏からの講演と併せて、三重県から招待された体育協会職員、スポーツ少年団指導者の講演が大きな反響を呼びました。フォーラムでは、三重県のパンフレットや地酒を展示したブースも設け、三重県のPRを行いました。</p>

⑤ 今後の展望	<p>(1)助成事業を活用した植樹活動は、2019年で終了となりましたが、20年間に及ぶ交流活動の成果として、例えば2018－2019年には、三重県が取り組む木材輸出に対して、当協会も調整に加わることで、河南省政府(対外友好協会)からも企業の紹介などの協力を得ることが出来るなど、植樹活動によって得られた信頼関係が他の分野にも波及しています。当協会では、今後も両県省の友好提携に基づく交流へ積極的に参加・協力していくこととしています。来年は両県省の友好提携35周年の記念事業が河南省において実施される予定となっており、三重県から知事をトップとした訪中団が派遣される予定です。当協会もこれに合わせて民間団を編成し、植樹活動に関わってきた人々等と民間交流が行われる予定です。</p> <p>(2)新型コロナの影響によって一時的に停滞しているものの、今後も中国出身の技能実習生や留学生は、三重県経済や高等教育機関等において重要な役割を果たしていくと推測されます。当協会による生活面でのサポートと日本人住民との交流事業が継続されることで、地域における多文化共生が進み、中国人がより一層活躍することが出来るようになり、ひいては三重県全体の発展につながっていきます。</p> <p>(3)今年度も、中国における「校庭サッカーサミットフォーラム」の開催と、フォーラムへの三重県からの参加が予定されていましたが、新型コロナの影響で三重県からの参加は出来ませんでした。来年度以降も、北京楽園体育発展有限公司によってフォーラムは継続開催される見込みであり、県体育協会やスポーツ少年団指導者が引き続き参加して、中国におけるサッカーを通じた青少年育成に協力していきます。また、今年度は、県体育協会の協力も得て、中国から小学生の訪問団を招聘して、三重県において小学生によるサッカー交流が行われる予定でしたが、新型コロナの影響で、来県の見込みが立っていません。来年度以降も、県体育協会や県サッカー協会などの協力も得ながら、実際の少年たちによるサッカー交流が行われる見込みです。</p>
⑥ その他	

## (2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	<p>(1)財務基盤の不安定な民間団体にあっても、他団体の助成事業を活用することにより、長年にわたって地方都市間の交流を主導的に実施可能であることを示す事例となります。また、民間団体による交流活動が、友好提携関係にある地方都市間の交流にも好影響を及ぼしている事例です。</p> <p>(2)日本で働いたり学んだりする外国人は、日本全国でますます増加すると予想されています。全国各地で必要とされる多文化共生に向けた取組の事例です。</p> <p>(3)中国の民間企業が行う公的な活動に対して、日本の民間団体が県行政やサッカー関係者と連携して協力するという、民間同士、行政同士という枠組みを超えた新しい交流の形です。</p>
② 独自性	<p>(1)当協会による植樹活動は、20年間という長期間にわたって実施されました。両県省の友好提携に資する交流を継続するため、森林分野に造詣の深い当協会の役員が主導することで、長期間にわたる交流が可能となりました。また、交流のすそ野を広げるため、中国側のカウンターパートを、青年団体、婦人団体、中国河南省林業庁など複数の団体としました。</p> <p>植樹活動だけを目的とせず、そこで生まれた友好関係を、他分野にも有効に活用して、両県省の交流発展につなげました。</p> <p>(2)外国人住民との共生に取り組むにあたって、留学生への働きかけを行うことで、将来的な友好交流の基礎を築いています。</p> <p>自らが技能実習生の受入機関となることで、団体の財務基盤強化と併せて、きめ細かいサポートを行うことが出来ています。</p> <p>(3)中国側団体、県行政と緊密なコミュニケーションをとることによって、中国側のニーズとそれに対応できる県の資源をうまくマッチングさせることに成功しました。中国側団体は、日本の他地域にも視察に行きましたが、自分たちが希望するものに出会えず、三重県でそれに出会うことができました。中国において開催される校庭サッカーフォーラムに講師として招待されているのは三重県だけです。</p>

<p>③ 継続性</p>	<p>(1)植樹活動は終了しましたが、その成果は三重県と河南省の友好提携を発展させることにつながっており、来年35周年を迎える両県省の友好交流は、今後も継続していくと考えます。</p> <p>(2)新型コロナの影響で技能実習生や留学生の来県が停滞していますが、渡航制限が緩和されるに連れ、往来が復活してくると推測されます。今後も協会の中核的な事業として取り組んでいく予定です。</p> <p>(3)北京楽園体育発展有限公司では、この事業を継続していく予定です。また、県行政や県体育協会も、少年サッカーの交流は次世代の日中友好につながることから、今後も協力が見込めます。</p>
<p>④ 活発性</p>	<p>(1)20年間に及ぶ植樹活動では、三重県側のべ100人、河南省側のべ1,000人が参加する、活発な交流となりました。</p> <p>(2)これまでにのべ700人の技能実習生を受入れてきました。また、過去3年で交流行事15回、のべ500人が参加して活発な交流が行われています。</p> <p>(3)2019年に天津で開催された第1回フォーラムの様子は、新華社通信の記事にもなり、ネット上で200万以上の閲覧数を記録するなど、この事業への中国での関心は高いものがあります。今後、実際に中国の小学生が来県してサッカー交流することになれば、三重県内でも交流の盛り上がり期待できます。</p>
<p>⑤ 協働性 ・連携性</p>	<p>(1)交流のすそ野を広げるため、中国側のカウンターパートを、青年団体、婦人団体、中国河南省林業庁など複数の団体としました。最終的には中国側の公的機関がカウンターパートとなったことで、より継続的、確実に実施することが出来ました。</p> <p>(2)技能実習生へのサポートについては、勤務先企業との連携を密に行うとともに、実習生本人からの生活や健康面での相談にきめ細かく対応しています。また、交流行事については、当協会の会員の他、三重大学の教員からの協力も得ながら、中国人留学生が多く在籍する三重大学の学生を青年サポート会員として活動へ参加してもらう等、常に参加者を増やすための努力を重ねています。</p> <p>(3)当協会が何かを主体的に実施しているわけではなく、県行政、県体育協会、県サッカー協会、スポーツ少年団などの協力を得ながら、中国側との調整を当協会が行うことで事業実施できています。</p>
<p>⑥ 効果 (相手方に与えた影響や効果を含む)</p>	<p>(1)河南省に計1,616ヘクタールもの林野・森林が生まれ、環境保全と土砂流出などの災害防止に寄与した活動によって、河南省における友好提携先の三重県の知名度と友好度合が確実に向上しました。また、当協会の会員をはじめとする活動に参加した三重県民にあっては、河南省への理解を深めることが出来ました。</p> <p>(2)県内経済において貴重な労働力となっている技能実習生のサポートをきめ細かく行うことで、勤務先企業におけるスムーズな就労や、地域生活を円滑に送ることが可能となっています。</p> <p>(3)2019年に天津で開催された第1回フォーラムにおいて、県体育協会、津市のスポーツ少年団指導者からの講演内容は、地元の教育者から大きな反響がありました。今回は参加者200名でしたが、日本のスポーツ少年団の取組は、中国の青少年育成に大きな影響を与える可能性があります。</p>
<p>⑦ その他 (500文字以内)</p>	<p>・日中友好協会は全国各地にある組織ですが、申請する交流活動は、当協会が独自に取り組んできたものです。特に、少年サッカー交流、留学生とはじめとする次世代の交流を担う青少年を参画させ、それを地域の発展につなげていく交流や、技能実習生の受入機関となることで財務基盤を確立するといった取組は、日中友好協会の中でも特徴的な取組です。</p> <p>・三重県の経済面や高等教育機関といった分野において、中国企業や在日・来県する中国人は、重要な役割を果たしています。当協会は、県行政あるいは市行政とも連携しながら、それぞれの友好提携先をはじめとする中国との友好交流に取り組んできました。単なる日中交流ではなく、三重県という地域社会の発展に必要な交流活動を行っていきます。</p>

【審査のポイント】

①先進性	・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。
②独自性	・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。
③継続性	・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。
④活発性	・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。
⑤協働性・連携性	・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。
⑥効果	・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。